

Vent

音楽教育 ヴァン

vol. 52

巻頭インタビュー

内田 良 部活動の今後を考える

特集

新しい『小学生の音楽』のご紹介

[小学校用教科書 内容解説資料]

参考楽譜

女声合唱『明日へ』(作詞:MISIA 作曲:松本俊明 編曲:横山潤子)





コミュニケーション力に期待

少子化が予想以上のスピードで進み、学校や教師を取り巻く社会状況も大きく変化するなか、部活動に関しても改革が必要なことは、多くの方が実感しているにちがいません。ただ問題は、地域や学校において状況が千差万別で、試行的に始められている先行事例を見ても、自分の地域や学校にとってはどのようなやり方がふさわしいのか、具体的なイメージが掴みにくいために、不安を感じてしまう教師もいるということです。自治体等から部活動の地域移行に関する相談が大学にもありますが、予算措置や人材確保など課題は決して少なくありません。大事なことは、できることから段階的に始めることはもちろんですが、目指す部活動の姿を地域と学校がしっかりと共有しながら、戦略的に議論を進めることだと思います。子どもの思いや現場の声を大切に、様々な立場や観点から可能性と課題を探っていく。そのような開かれたコミュニケーション力が問われているのではないのでしょうか。

佐野 靖(東京藝術大学副学長・教授[音楽教育])

Contents

- 3 | 巻頭インタビュー
内田 良(名古屋大学 教授／教育社会学者)
- 8 | 授業者に訊く[特別事例編]
相原 結(獨協埼玉中学高等学校 講師)
内兼久秀美(大阪教育大学附属池田中学校 教諭)
田中龍三(元 大阪教育大学 教授)
中野 淳(日経BP 日経BOOKS ユニット長補佐、大阪教育大学 客員准教授)
- 13 | 特集
新しい『小学生の音楽』のご紹介[小学校用教科書 内容解説資料]
- 24 | Kyogei Presents
音楽診断
[第17回] リート編(監修・解説: 山田治生)
- 26 | Information
- 28 | 参考楽譜
女声合唱『明日へ』(作詞: MISIA 作曲: 松本俊明 編曲: 横山潤子)
- 38 | エッセイ
新・音から広がる世界[第12回] 藤原道山

部活動の今後を考える

教育社会学者

内田 良

聞き手

坂元勇仁

Ryo Uchida

今号の巻頭は、教育社会学者で名古屋大学教授の内田良先生のインタビュー記事です。内田先生は、スポーツ事故や校則、教員の過重労働や部活動負担などの学校リスクについて研究されています。2022年12月にスポーツ庁と文化庁から公表された「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」の「部活動の地域移行」を行うにあたって、考えていくべき課題についてお話を伺いました。

「部活動がつらい」はタブーだった

坂元：スポーツ庁と文化庁から公表された「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」では、「部活の地域移行」として、まずは公立中学校等の休日の部活動を段階的に地域連携・地域移行することが示されています。教員の働き方改革は、1972（昭和47）年に施行されたいわゆる給特法の見直しからスタートしているかと思えます。この議論が始まったのはいつ頃なのでしょう？

内田：教員の長時間労働に関する議論が始まったのは2000年代半ばあたりからですが、とりわけ部活動が注目を浴びたのは2016（平成28年）年に入ってからです。出発点はSNS上で学校の先生方が「部活動がつらい」と言い始めたことです。職員室では言えなかったことが表に出て、教員の負担が注目されたことから、働き方全般に議論が広がったといったところですよ。

坂元：それ以前の先生方は、つらいと思っていても声を上げられなかった……。



部活動によって
日本の音楽文化の基礎が
つくられてきた
一面もあると感じます。

● 坂元勇仁（さかもと・ゆうじ）

音楽文化プロデューサー。ビクターエンタテインメント株式会社ディレクターを経て、2005年に有限会社ユー・ジ・プランニングを設立し現在に到る。主な制作作品として「原典による近代唱歌集成 誕生・変遷・伝播」「アジアの音楽と文化」（ともにビクターエンタテインメント）など。著書に『明日も会えるのかな？ 群青-3.11が結んだ絆の歌』（パナムジカ）などがある。現在、大阪芸術大学客員教授、東京音楽大学特任講師、日本大学芸術学部非常勤講師。

内田：先生が「部活動がつらい」と言うこと自体がタブーだったんです。本来、教員の長時間労働の問題を解決しようと考えたときに、組合が真っ先に取り組むべきなのは部活動の在り方です。しかし、組合員に部活動が好きな人がいればその意見が非難されたり、組合員が減ってしまったりする可能性があるため実際に取り組むことができないのだと、さまざまな組合から聞きました。それでも多くの先生方が声を上げ始めたため、取り組まざるを得なくなってきたというわけです。

坂元：この問題を調べ始めてから知ったのですが、部活動は教育課程に入っていないため、本来やらなくてもいいものなのですね。私自身は部活動があったおかげで、今の仕事に就いていると感じていますし、同じような方もたくさんいると思うんです。部活動はやらなくてもいいけれど、やることによって日本の音楽文化の基礎がつくられてきた一面もあると感じます。

内田：そうです。だからこそ「部活動をいかに残すか」は考えるべき課題です。しかしながら、部活動の在り方として、先生方のただ働きでまわっている状態というのは極めて不健全ですし、このままではもはや成り立ち得ません。子どもたちも先生も、全員が無理なく部活動を楽しめる社会をつくる必要がありますよね。

部活動の在り方を考える

坂元：現在の部活動の状態をご覧になってどのように感じいらっしゃいますか？

内田：僕は、持続可能なかたちで部活動をまわすには、週3日程度の活動が限度だと考えています。そのうえで、大会やコンクールの参加条件として、例えば「練習は週3日までに限定する」など、その上限設定された日数で練習して全国大会へとつながるコンクールを行う。そうすれば学校ごとの練習時間の差が出なくなり、格差問題が起きなくなります。

坂元：合唱部や吹奏楽部のコンクールは、子どもたちのチャレンジの場であり、そこでよい成績を収めることは子どもたちの達成感につながります。ただし、全国的に見るとコンクールに出場する学校は多くはないので、コンクールを目指していない子どもたちの活動こそしっかり考えていかないと全体的な音楽教育の底上げにはなりませんよね。

内田：その通りだと思います。ほんとうは、トップを目

子どもたちも先生も、
全員が無理なく部活動を楽しめる
社会をつくる必要がありますよね。



● 内田 良(うちだ・りょう)

名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授、教育社会学者。学校リスク(スポーツ事故、組体操事故、転落事故、校則、体罰、自殺、2分の1成人式、教員の部活動負担・長時間労働など)の事例やデータを収集し、隠れた実態を明らかにすべく、研究を行う。また啓発活動として、教員研修等の場において直接に情報を提供している。専門は教育社会学。博士(教育学)。ヤフーオーサーアワード2015受賞。消費者庁消費者安全調査委員会専門委員。

指す活動と楽しむ活動を分けるべきだと思っています。トップを目指すなら、運動部でも文化部でもそれなりに高額な指導料を支払って、実績のある指導者に育ててもらいしかありません。学校のサービスとして提供された活動として行うのであれば、トップを目指すことは諦めて、初心者には初心者で楽しむことを目標にする。コンクールへの出場を目指すことはよいことですが、部活動が社会の教育活動の一環であることを意識するのは大事です。できればコンクールの対象も初心者や中級者など分かれているとよいのですけれどね。

坂元：私はレコーディング・ディレクターを仕事にしており、1990年代に全国の子どもの歌を収録していたことがありました。そのとき行った名古屋の少年少女合唱団の収録で、不登校の子どもたちも練習に参加し、楽しく活動していると聞きました。どうやらその子どもたちは、学校の部活動になるとコンクールに出るなど競争原理が働いているので、行きたくなってしまわない。でも街の児童合唱団なら練習自体は厳しくてもコンサートやイベントへの出演が多いので、リラックスできるという非常に印象的なお話でした。最近になって改めて調べてみると、そのような競争のない活動場所は今とても需要があり、自治体が運営する団体は特に

人気があることが分かりました。公的な補助が出れば場所も活動時間も確保できますので、もっと自治体が子どもたちをサポートしてくれたらなと感じます。

内田：大賛成です。コンクールや大会を目指す部活ではなくて、大人が音楽やスポーツを楽しむように「やることそのものに意義がある」という活動は子どもたちにとって必要だと思います。

地域移行の課題

坂元：これから部活動の地域移行が行われ一部民営化されるとなると、どのように進展するのか不安な方も多いと思います。

内田：部活動の民営化に対しては、否定的に捉える方も多くいらっしゃいます。それでもやはり、つらい思いをして、ただ働きで土日を費やしている先生方のことを考えないと……。現在、部活動は商業主義にならないよう配慮されていますが、僕は企業からの資金を集めて指導者を呼ぶことを検討してもよいと思うのです。部活動でお金がまわる仕組



取材は2023年2月1日、名古屋大学で行われた

みを考えない限りは、月1回も活動できないかもしれません。でも部活動は楽しいわけですから、日数は減らさざるを得ないとしても、できるだけ活動日数を確保して、みんなが楽しめる方法を考えたいです。

坂元：私たちはこれまで、先生方の献身的な努力で音楽に接することができていました。学校の先生方の考え方もさまざまで「私はただ働きでも構わない」という熱心な先生もいらっしゃいます。この先生方と、疲れてしまっている先生方の温度差をもう少し縮めない限り、なかなか着地点が見えてこないようにも感じます。

内田：熱心な先生は、地域移行後の指導者として活動する方法もあります。そのような先生方のエネルギーや指導力は、積極的に社会全体の中で生かすべきです。全員が極力損をせず、部活動をまわしていく方法を模索するために、さまざまなアイデアを出していく必要がありますね。

坂元：運動部と文化部でそれぞれ状況も異なりますよね。文化部は土日にまとめて練習すると、子どもたち自身もより達成感を得られると思います。

内田：一般に、運動部よりも文化部のほうが、身体的に活発な動きが少ないため、長時間の練習が可能であることは長所でもあり、課題の1つです。それでも土日に先生方が

働いていることは問題ですので、そのためにも今、提言されているようにまずは土日の活動の地域移行から実施するのがよいと思います。最初からすべてを地域移行することは非常に難しいでしょう。また細かい部分で見ると、保護者の金銭的な負担も大きな問題です。活動が保障されていても、お金持ちしかできない活動では意味がありませんし。

坂元：合唱部は自分の体自体が楽器なのですが、吹奏楽部ですと木管楽器のリードを買うお金が非常にかかるなど、保護者の方の負担は大きいものだと思います。

内田：吹奏楽は移動するにも車が必要ですしお金もかかりますから、地域移行という点ではすぐには難しい面があるでしょう。合唱部は自由に動けることから、地域移行には適応しやすい面はあるかもしれませんね。

学校現場のアイデアと変化

坂元：全国的に部活動の在り方について、変化はありますか？

内田：全体で見ると、議論はしていますが大胆な動きには至っていません。2018年に文部科学省（スポーツ庁、文化庁）が部活動に関して「練習は週5日まで」とガイドラインを出しま

した。僕の見立てでは、週2日休むことは、むしろ強くなるための発想の転換になります。特にスポーツの世界では、3日練習して1日休んで、2日練習して1日休む。これは強くなる方法とされています。私のいる愛知県はわりと進んでいて、現在10ほどの自治体が、平日の部活動は週3日までと打ち出しています。

坂元：それだけで、あとは全くやらないのですか？

内田：はい、やらないです。その代わりもっと活動したい子は地域のスポーツクラブに入ったり、民間の指導者に教えてもらったり、対価を支払って行うわけです。学校側の公共サービスとして最低限の機会保障を残した形になります。

坂元：実際に、もう取り組んでいる自治体もあるんですね。

内田：はい。それから、おもしろい取り組みをしている自治体の1つが岐阜県下呂市です。下呂市では、全中学校の生徒の下校時刻が16時30分に統一されました。つまり、教員の定時と同じ時間に帰るわけです。さらに部活動は週3日とされていますが、時間割を調整した上で委員会活動や掃除の日数を削減し、学校行事の準備も最小限とするなどして、これまでに費やしていた部活動の時間はそのまま確保しています。現実的には翌日の授業準備を16時30分までに終わらせることができるのかなどの細かい問題もありますが、それでも定時の中で働くことを目指す仕組みを取り入れた下呂市はすばらしいと思います。

坂元：その取り組みは、どのように始まったのでしょうか？

内田：コロナ禍になったとき、ある中学校の校長先生と教頭先生が職員室で「生徒の下校時刻が18時とか19時になっているのはおかしいよね。変えてみようか？」と話をしたところから始まったそうです。少しずつ学校の中で生じていった変化が、市全体に広がったと聞きました。

坂元：自治体ではなく、学校からのアイデアだったんですね。

内田：また最近では私立の学校だと、残業代をしっかりと払い、教員の労働時間に配慮するところも増えているそうです。でも土日の大会引率はどれだけ練習を減らしても生じる業務ですから、結果週6日勤務になってしまう。そこで土日に出勤する先生は、平日どこか授業のない日をつくり、週5日勤務を目指して工夫している学校も出てきていますね。

大切なのは機会保障

坂元：今の先生方は、たいへんな業務量を抱えており、部活動以前に授業の準備が十分にできないという話も聞きます。何とか先生方の負担を減らすために実現可能な「地域移行」の形を模索しながら、少しずつ進めていくことは必要だと思いました。

内田：部活動が数十年にわたって徐々に過熱が進んで今に至るわけですから、何かを変えるには1年や2年では全く足りません。5～10年かけて根本的にシステムを見直していく必要があると思います。教育社会学者として申し上げたいのは、部活動が子どもたちにとって「楽しい」「いい思い出」なのは大事ですけど、それよりも大切なのは「機会保障」であるということです。学校の中で子どもたちに放課後の活動を保障してきたということは、学校教育の最大の魅力だと思っています。その活動が楽しいのであれば、なお大事にするべきです。だからこそ、どう残すかの議論をしなくてはいけない。教育社会学者としてはそのような立ち位置で考えています。

坂元：先生方に伝えたいことはありますか？

内田：難しいかもしれませんが「土日はしっかり休んでください」と伝えたいです。そして、部活動を残す方法を一緒に考えていただきたいです。部活動は負担になるかもしれませんが、これまで果たしてきた意義は非常に大きいですから。これからは人もお金も限られた中で、何とかアイデアを出していかなくはなりません。ぜひ、先生方が実践してうまくいった例などを共有していただけたらと思います。



坂元勇仁さんと内田良先生



獨協埼玉中学高等学校『威風堂々』の授業

Ask the teacher

授業者に 訊く

特別事例編

あいほら ゆな
相原 結
獨協埼玉中学高等学校 講師

うちかね く ひ で み
内兼久 秀美
大阪教育大学附属池田中学校 教諭

た な かり ゆ う ぞ う
田中 龍三
元 大阪教育大学 教授

なか の あ つ し
中野 淳
日経BP 日経BOOKS ユニット長補佐
大阪教育大学 客員准教授



大阪教育大学附属池田中学校『ブルタバ』の授業*

大阪教育大学のウェブサイト
で、本記事に関する相原先生
と内兼久先生の指導案や論
文、VR教材などの情報を4月
下旬に掲載する予定です。



<https://www.osaka-kyoiku-music.com/>

今号でご紹介するのは、VR映像を活用した中学校音楽科での鑑賞授業です。生徒たちはVRゴーグルや学習端末などを利用して、オーケストラの音楽を体験しながら学習を発展させます。相原先生と内兼久先生それぞれの実践をもとに、この取り組みを行った4名の先生方にお話を伺いました。

写真提供 = 日経BP (*の付いている写真4点)

概要

本実践では、中学校音楽科の鑑賞授業において、360度の視点移動が可能なVR映像を活用し、生徒の主体的、対話的に深い学びの実現をめざした。VR映像は、VR製作会社のアルファコードの協力を得て、大阪教育大学シンフォニーオーケストラの演奏を収録した。VR映像を活用した鑑賞授業は、1年生と3年生で実施。1年生は『威風堂々』、3年生は『ブルタバ(モルダウ)』を題材にした。端末はChromebook、スマートフォン、専用のVRゴーグルを併用し、グループでオーケストラについて学んだ。実践の結果、DVD映像などを用いる従来の授業に比べてオーケストラに関する生徒の興味、関心、理解が向上し、探究的に学ぶ様子が見られた。

授業実践のねらい

DVDなどの既存の鑑賞用映像では、その曲の「よさ」や「重要」とされている部分が編集者の意図に沿って収録されている。一方、VR映像は、生徒が能動的に意識した方向の映像を鑑賞できる。このため、VR映像を活用することで、生徒一人一人が、曲のよさやおもしろさを見付け出し、音楽鑑賞での理解を深められると考えた。

生徒たちは普段、完成した状態のオーケストラの音楽を聴くことが多い。今回のVR映像では、カメラの位置を変えるとカメラの周囲の音が聴こえるため、普段聴こえてこない個々の楽器の演奏にも気付きやすい。オーケストラはさまざまな楽器やパートで作られているという事に気付くことをねらった。

VR映像では、「指揮者の動きや表情」と音楽との関係、奏者の目線・息継ぎ・譜面めくり、各楽器の奏法など、DVDやホールでの鑑賞でも見られない演奏の様子を観察できる。感情を込めて演奏しているということや演奏の工夫などに気付いて、オーケストラに親しみや興味を持ってもらうことも意図した。

授業の流れ：1年生『威風堂々』

学習過程	学習活動及び内容	指導上の留意点
導入	【1時間目】音声のみの『威風堂々』を鑑賞し、気になったことや疑問に思った事をワークシートに書き出す。	楽曲の雰囲気味わいオーケストラの楽器や音色、奏法などに関心を持つように促す。
展開	【2時間目】VR映像の『威風堂々』を視聴する。書き出した疑問点の答えを、VR映像を活用して探し、ワークシートに記入する。	オーケストラの楽器の音色、音色と奏法の関係について関心を持ってVR映像を視聴するように促す。
まとめ	【3時間目】『威風堂々』を鑑賞して、よさやおもしろさを感じたことについて、ワークシートにまとめる。	オーケストラのよさやおもしろさを他者に伝えられるようにする。このとき、プレゼンテーションを意識して、他者に伝えるように工夫して記入する。

使用機材：VR専用ゴーグル、スマートフォン(生徒私物)、スマートフォン用簡易ゴーグル、ポケットWi-Fi、Chromebook

概要

本実践は、中学校3年生を対象に、B.スメタナ作曲『ブルタバ(モルダウ)』を教材とした鑑賞の事例である。鑑賞領域における「知識」に関する資質・能力である「曲想と音楽の構造との関わり」を生徒が自ら探究的に学び、理解できるようにするために、オーケストラの団員が演奏している舞台上での視点のVR映像を作成し活用した。また、「思考力・判断力・表現力等」に関する資質・能力である「生活や社会における音楽の意味や役割」について、本校が取り組む国際バカロレア教育の探究学習を通して考えを深めることにより、さまざまな地域や時代の生活や社会において、多種多様な音楽それぞれがもつ意味や役割について、深く理解することができる学習となった。

授業実践のねらい

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編には、鑑賞領域の指導内容として、①音楽の素材としての音、②音楽の構造、③音楽によって喚起されるイメージや感情、④音楽の鑑賞における批評、⑤音楽の背景となる文化や歴史など、という5つの観点が示されている。本実践では、上記の5つの観点のうち、①音楽の素材としての音、及び、②音楽の構造の2つの観点については、VR映像を活用することで、楽器の材質や形状、発音原理、奏法などからどのような音であるか捉えさせたり、音楽を形づくっている要素そのものや要素同士の関連及び音楽全体がどのように成り立っているかなど、音や要素の表れ方や関係性、音楽の構成や展開の有り様などについて主体的に捉えさせたりするように図った。本大学の「大阪教育大学シンフォニーオーケストラ」と「株式会社 アルファコード」と連携し、実際に演奏している様子をVR映像として録画し、VRや2Dの動画をFullHDや8Kなど高画質、高音質で簡単に楽しめる映像配信プラットフォームであるBlinkyというアプリケーションを用いてVRゴーグルやiPadで鑑賞させることとした。また、③音楽によって喚起されるイメージや感情、④音楽の鑑賞における批評、⑤音楽の背景となる文化や歴史など、の3つの観点については、特に、本校が取り組んでいる国際バカロレア教育の特徴の一つである概念的理解を発達させる探究学習を通して、生徒同士がお互いに理解したことを伝え合い、協働して意味を構築させるように図った。

単元計画

	学習活動	時間数
第1次	学習の流れを理解し、『ブルタバ（モルダウ）』のVR映像を視聴し、曲想や情景と音楽の構造との関わりに関心をもつ。音色及び旋律を知覚し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと、感受したこととの関わりについて考える。	1時間
第2次	曲想や音楽の構造と作品の背景との関わりについて理解する。	1時間
第3次	『ブルタバ（モルダウ）』の作曲者の思いや意図と音楽の構造の関わり、作品が社会に与えた影響、そして生活や社会における音楽の意味や役割について考える。	1時間

VR映像を活用した鑑賞授業

自由に見に行く教材を

Vent: このプロジェクトはどのように始まったのでしょうか？

中野: 私は仕事でICT活用教育に関わる事が多く、ご縁があって教育機関の方々とさまざまなプロジェクトを行ってきました。その中の1つ、三重県立鳥羽高等学校の取り組みではVR製作会社のアルファコードの協力を得て、高校生が地元の海女さんと連携しながら、実際に海中にVRカメラを入れるなどして、地元を紹介する作品をつくりました。このときの経験で、その場の様子を360度の映像で能動的に体験できるVRは、授業用の教材としても可能性があると感じました。その後、田中先生、相原先生とお話する中で、音楽分野での今回の取り組みのアイデアが出てきました。

田中: 私が最初にVRを使いたいと思ったのは、歌詞の難しい小学校の歌唱教材を取り扱う場面でのことです。『冬景色』では歌詞の「さざり消ゆる港江」など、どういう意味で、どのような情景なのかを子どもたちに伝えなくてはなりません。この景色をVR映像で360度見渡せたのなら、子どもたちは「こういう景色なんだな」と実感できますし、どう歌いたいかを考えることができると思うのです。『浜辺の歌』の「風の音よ雲のさまよ」のところも、VR映像があればその目線と気持ちの高まりも学べるわけです。

相原: 鳥羽高校の取り組みの発表会に参加する機会があり、初めてVR映像を体験しました。実際に映像を視聴してみて、VRで演奏風景を体験できる教材があると、生徒が自ら何かを見付け出す学びができるのではと感じました。そこから、どのような教材があるとよいのか、それを使ってどのような授業にすればよいのかなど、悩みながら準備を進

めました。

田中: 一般的な鑑賞教材のDVDは、制作者が見るべきと判断した箇所がクローズアップされます。ですが、VR映像であれば、子どもが自ら「どの楽器がどの音を出しているのだろう？」と気になったところへ、自由に見に行けるわけです。そこで中野さんにオーケストラでそれができないかを相談しました。さらに大阪教育大学のシンフォニーオーケストラに相談しまして、卒業式で演奏する『威風堂々』とオーケストラの授業で行っていた『ブルタバ』とを収録しました。

V: 中野さんは、音楽の教材でVRを使いたいというご相談をいただいたときに、どう思われましたか？

中野: 私は演奏家ではありませんので、舞台の上での個々の演奏家の役割や風景がどういうものか知りませんでした。お話を伺ううちに、VRで演奏の様子を記録できれば、演奏家しか知らない世界を体験できる教材になると感じました。これによって、音楽教育の中で、児童・生徒の学びが深まるとすばらしいと思います。

生徒が各自の疑問の答えをVRで探す

V: 授業について伺います。相原先生が実際に授業を行って感じたことを教えてください。

相原: 私は器楽が専門ですが、普通はオーケストラを奏者の目線から体験することはありません。そのため、生徒たちにステージの上からの景色を見てもらいたいという気持ちはずっとありました。VR映像の活用を始めて実践したのは、中学1

年生の春の授業です。エルガー作曲の『威風堂々』のVR映像を使いました。授業でVRゴーグルを扱うのは初めてで少し不安はありましたが、生徒たちは簡単に扱っており、楽しんで授業に取り組めたようです。スマートフォンでもVR動画を観ることができるよう設定しましたので、希望者にはスマートフォンを持参させました。また本校は1人1台Chromebookを使っているため、VRゴーグルとスマートフォン、



左上から田中龍三先生、中野淳さん、左下から内兼久秀美先生、相原結先生。オンライン座談会の様子



相原結先生*



内兼久秀美先生*

Chromebookの3つの機材のうち、自由に好きなものを使えるように授業を行いました。

V: 授業はどのように進めたのでしょうか？

相原: 最初に『威風堂々』の演奏を音声のみで聴かせて、疑問に思ったことをワークシートに書き出してもらいました。すると、「高いキラキラした音は何の楽器なのだろう」「楽器を演奏していないときは何をしているのだろう」など、さまざまな疑問点が出てきました。次に、VRゴーグルや端末を使って、各自の疑問の答えを探してもらいました。すると生徒は、「キラキラした音の正体は鉄琴」「演奏しないときは打楽器の面を手で押さえていた」などの答えを見付けていました。

V: 田中先生と中野さんは、相原先生の授業をご覧になっていかがでしたか？

田中: 生徒たちはオーケストラ演奏にとっても興味をもちました。自分で指揮をしてみている生徒もいましたね。VRでなかったら、あそこまで一生懸命音楽を聴いたり体を動かしたりすることはないと思います。質問もたくさん出ていました。

中野: 生徒の皆さんが楽しんでいたことがとても印象的でした。オーケストラに対する興味関心が授業を通じて広がっていました。相原先生は授業後に、生徒たちにアンケートを取ってまとめています。その内容を見ると、授業前と授業後で生徒たちの学習への意欲や理解に大きな伸びが見られました。探究学習や音楽科の学習はVRと親和性があると感じました。

自分で発見しながら理解する

V: ありがとうございます。内兼久先生は『ブルタバ』の授業実践を行われましたが、いかがでしたか？

内兼久: 本校はIB教育（国際バカロレア教育）の認定校ですので、学習指導要領と国際バカロレア教育両方に添いながら

実践を行っております。そこで、IB教育の「探究学習を行うための鍵となる重要概念」の1つとして示されている「コミュニケーション」を『ブルタバ』で実践しようと思いました。スメタナがどのような思いを音楽で表現しようとしたのか、それが人々にどう影響を与えたのか、今を生きる生徒が音楽作品を通してどのように感じ、解釈するかなど、さまざまなコミュニケーションの在り方について授業を通じて学習を深められたらと思ったのです。

V: 大きな目標に沿って授業を行われたんですね。

内兼久: はい。この研究授業に入る前には、VR映像が子どもたちにどのぐらい浸透しているかを確認するために、『越天楽』のVR映像で鑑賞の授業を行っています。見たいところを拡大すると音が近くで聞こえる機能が映像に付いていたので、VR映像ならではの気付きも多かったようです。

V: DVDとはまた違う気付きが出てくるのですね。

内兼久: VR映像は、見たいものを見たい距離で鑑賞することができるので、生徒たちは、それぞれの楽器がもつ音色や演奏している旋律について「何となく理解」していたことを、「自分で発見しながら理解」できるようになったと感じます。「川のさまざまな情景を、どのような楽器を用いて表現して



VR映像収録の様子（相原先生の論文より）



生徒同士グループで話し合う*

いるのか」という疑問をもつことができた生徒もいました。この1時間を出発点に、スメタナの音楽による芸術的意図や、作品が与えた人々や社会への影響などを探究することによって、音楽文化に対する理解を生徒たちに深めてもらいたいなと思っています。

V: 内兼久先生の授業はいかがでしたか？

田中: VR映像を使った授業をするにあたって、大切なことを丁寧に示していただいた印象を受けました。生徒たちが、音楽で情景を表すことに関してこれまでどのような学習をしてきたかを振り返り、段階を経てVR映像を使った鑑賞に向かうように組み立てられていたと思います。

音楽のよさを伝えるために

V: 最後に、今後の展望と課題をお伺いしたいと思います。現在、Society 5.0[※]の時代に入ったという話題をよく耳にします。それらを音楽教育ではどのように活用できるか、お考えがあれば教えてください。

中野: 今の社会は、自ら探究的に課題や本質的なことを見付け出して、それを情報発信できるような子どもたちを育てようとしています。さまざまなICTの道具がある中で、VRはうまく使えば有効であると先生方の取り組みを通じて改めて思いました。VRの活用には、大きく3つの課題があると考えます。1つは機材の確保。専用のゴーグルは現在1台数万円するので、授業に必要な台数を揃えるのは難しいです。ただ、今はほとんどの子どもたちが学習用端末やスマートフォンを持っているので、これらをうまく使えばVR教材の活用が可能になります。2つ目は「どう使うか」です。VRは万能ではありませんから、音楽科に限らず使い方の模索が必要になってきます。3つ目は、授業で使う教材をどう用意するかです。今回のVR動画は広く公開する予定ですので、全国の先生方に使っていただきたいと思います。教材は既存のものでなくても構いません。先生方が数万円のVRカメラで撮影して編集すれば、自分たちに合った教材を制作できます。こうした可能性も広がっている所以今後、VR教材の作り

方についても、情報発信していきたいと考えています。

V: 相原先生と内兼久先生は、今回の取り組みを経て展望はありますか？

相原: 私は音楽が好きで、生徒にも音楽のよさを感じてほしいという気持ちが常にあります。VR映像の活用は、こうした思いの実現に役立つと感じています。音楽科のVRの教材はまだ少ししかなくて、実践事例もわずかです。今後、教材や活用例が増えてくれば、さまざまな学びの可能性が見えてくると思います。今回はアルファコードさん、中野さん、田中先生にお力添えをいただいてこの実践にたどり着けたので幸運でした。これからは自分で教材をつくることも試みていきたいです。小さな規模でもできるICT活用で、生徒の学びが深まればいいなと思います。

内兼久: 私は生徒たちに生涯音楽に親しんでほしいという思いで、さまざまな音楽を取り扱ってきています。AIが発達して私たちに求められる力が変化していく中で、普遍的に必要とされるものは、あるものに対して価値を見出したり、感性を働かせ、他者と協働しながら新たなものを生み出したりする力ではないでしょうか。生徒たちに、作品を通して音楽のよさを実感できる大人になってもらうための有効的な手段が、今回のVRでした。VRがただの新しいものではなく、音楽のすばらしさを感じる一つ的手段であることを、多くの人にお伝えできたらと思います。GIGAスクール構想でタブレット端末が1人1台に行き渡っていますので、多くの場所でVRは活用できるのではないのでしょうか。

V: 田中先生は今回の取り組みを通してどのように感じましたか？

田中: VR教材を使った実践はまだ始まったばかりですが、これから多くの先生方が実践をしていただければ、そこからさらなる資料を得ることができます。すると音楽科の鑑賞授業は発展し、子どもたちは今よりもっと主体的に音楽を聴くことになると思います。オーケストラの収録ともなると、制作費など課題も多くあると考えます。今回、相原先生と内兼久先生の熱い思いを伴ったVR授業が生徒の主体的な学びに非常に効果的であったと感じました。今はここに集まった数人のメンバーでの実践ではありますが、少しずつ世の中に広がっていく手立てを考えなくてはと感じています。

※サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）。狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。〔内閣府ウェブサイトより〕

特集

新しい『小学生の音楽』 のご紹介

[小学校用教科書 内容解説資料]

令和6年度から
小学校用教科書『小学生の音楽』が
改訂されます。
教育芸術社では、音楽科の果たす役割を考えながら、
今日的な教育の課題にも対応した、
新しい時代にふさわしい教科書づくりを目指して
編集してまいりました。

目次

- 改訂の3つのポイント p.14
 - 1 学びが見える p.14
 - 2 学びがつながる p.16
 - 3 楽しさを大切にしたい学び p.18
- 二次元コード p.20
- 生活や社会と音楽との関わりについて p.21
- 番外編「題材構成」を理解するために p.22

本特集は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、
一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則り編集しています。



改訂の3つのポイント

POINT

1

学びが見える～「何を学ぶか」「何ができるようになるか」を明確にします

新しい教科書では、子どもたちが「何を学ぶか」「何ができるようになるか」をより具体的に分かりやすく示すために、学習活動を「思考力、判断力、表現力等」「知識」「技能」の資質・能力に対応するように構成し、これらの学習活動を相互に関わらせることで、楽しみながら音楽の学びと向き合うことができるように編集しました。

思考力、判断力、表現力等

＼考える／



気付いたことや学んだことをもとに、声や音の出し方などを試したり比べたりしながら、「このような音楽にしたい」という思いや考えをもったり、曲や演奏のよさについて考えながら聴いたりするための活動を示しています。

知識

＼見つける／



曲想が歌詞や音色、リズムなどと、どのように関わっているか、楽器の音や響きが演奏の仕方によって、どのように変わるかに気付いたり、音やリズムなどの組み合わせが生み出すよさやおもしろさを見つけたりするための活動を示しています。

技能

＼歌う／



＼演奏する／



＼つくる／



自分の思いを表せるように、声や楽器の音の出し方に気を付け、互いに聴き合いながら歌ったり演奏したり、ねらいに合った音を自由に選んだりまとまりのある音楽をつくったりするための活動を示しています。



「どのように学ぶか」を示すことで、子どもたちの主体的な活動を引き出します。

これまでの学習活動（活動文）の示し方の例

- ばんそうをよくきいて、**ア**と**イ**のかんじのちがいに気をつけながら、拍にのって歌いましょう。
- **ア**と**イ**のせんりつの音の上がり下がりがどのようになっているのか、音の高さに合わせて手を上下に動かしながら歌ってたしかめましょう。

令和2年度～「小学生の音楽3」から

新しい教科書の学習活動の示し方の例

 子どもたちの「思いや意図をもつ」「気付く・理解する」「できる」をサポートします。


よく聴ける！
 せんりつの音の上がり下がりはどうなっているかな。音の高さに合わせて手を上下に動かしながら歌ってたしかめましょう。


よく考える！
 せんりつの音の上がり下がりや**ア**と**イ**のかんじに合う歌い方やえんそうのしかたを考えましょう。


よく歌う！
 声や音の出し方に気をつけて、歌ったりリコーダーをふいたりしましょう。

5 せんりつのとくちようをかんじとうら

とどけよう このゆめを

120～132 安西 真作詞／高杉順三作曲



1 あさひが わらーてる そらたか く かがやいて
2 あさひが うたーてる こえたか く ひびかせて

キラキラ あざやかに ゆめを え が く よ
キラキラ うつくしく ゆめを か かな てる

よ び け る か ぜ の う た く も に の ー て
よ び け る か ぜ の う た う み を こ え て

と ど け よ う こ の ゆ め を そ ら の か な た
と ど け よ う こ の ゆ め を は る か な た


よく聴ける！
 せんりつの音の上がり下がりはどうなっているかな。音の高さに合わせて手を上下に動かしながら歌ってたしかめましょう。


よく考える！
 せんりつの音の上がり下がりや**ア**と**イ**のかんじに合う歌い方やえんそうのしかたを考えましょう。


よく歌う！
 声や音の出し方に気をつけて、歌ったりリコーダーをふいたりしましょう。



上の図形を指でたどってみてほしいね。

となりの音に数くと、なめらかなかんじがするよ。

アと**イ**のかんじのちがいに気をつけて、ばんそうもきいてみよう。

改訂の3つのポイント

POINT

2

学びがつながる

～系統的な題材構成を主軸とした学習の積み重ねによって、着実に学ぶことができます

学んだことを関連付けたり活用したりすることができるように、音楽を形づくっている要素を中心に、各教材を結び付けて題材が構成されています。

題材構成について

各教材は「題材」という1つのテーマ(主題)の中で構成されており、教材どうしを関連付けながら学習することができます。

3年 もくじ こころのうた (両面教材) はくから歌いつづれ、 これから歌いつづれたい歌 春の小川……………10 春つあ……………12 ふじ山……………40 うさぎ……………44 ようこそ リコーダーの世界へ……………2 学習マップ……………4 音楽や音楽をつくる学習を しめています。 かんじょうの学習を しめています。 前に学習したことを もう一度たしかめるための ページをしめています。 音楽の力をそだてるために、 少しずつくりかえして行う活動を しめています。 よりすすんだ学習活動を しめています。 楽しさをより広げるための 学習をしめています。 このページにあることが、 学習をより楽しく、 また学びをより深めるための教材です。 学習に役立つ音楽やしりょうが ウェブサイトにあります。 音楽をきくことができます。 資料を調べるすることができます。	1 音楽で心をつなげよう ハッピーソング……………8 リズムでなかよくなろう……………9 春の小川……………10 春つあ……………12 2 歌って音の高さをかんじよう ドレミで歌おう……………16 ドレミと実だちになろう……………17 飛鳥きって……………18 3 リコーダーのひびきに 親しもう はじめましてリコーダー／小高のために……………20・21 リコーダーと友達に……………22 ピタゴラスイッチ……………23 ダンギンと笛の使い方……………24 いろいろな音の音であそぼう……………25 きれいなソラシ……………27 毎週……………28 いろいろな音であそぼう……………28 飛上がり……………29 いっしょに楽しく学んでいこう。 学習がよりふかまるように アドバイスするよ。	4 拍のつてリズムをかんじよう はかいな来さん……………30 あの子のように……………32 アチャ パチャ ノチャ……………33 手拍子でリズム……………34 5 せんりつのとくちょうを かんじよう とどけよう このゆめを……………36 メヌエット……………38 ふじ山……………40 うさぎ……………44 6 せんりつのもりをかんじよう かね……………46 歌おう 声高く……………48 リコーダーのひびきであそぼう……………49 メリーさんのひつじ……………50 7 いろいろな音のひびきに 親しもう トランペットふきの休日……………52 【楽器ずかん】 トランペットのなかまを知ろう……………54 よろこびの歌……………54 パフ……………56 クロック ミュージック……………58	8 おいしにつたわる音楽で つながろう 神田童子(国語教材)……………60 ちいさにつたわる振りばやしを調べよう……………63 ちいさな音でせんりつづくり……………64 しめだいこにちようせんしてみよう……………65 9 思いを音楽で表そう 蝶り舞……………66 エーデルワイス……………68 歌いごう 日本の歌……………70 ゆりかごの歌……………71 七つの子／どこかで春が……………71 おまけ はしごら……………72 おぼろ 歌はよう……………73 にじ……………74 ゴーゴー……………75 また あそび……………76 Head, Shoulders, Knees And Toes (洋楽の歌)……………77 友だち／よろこびの歌……………78 はかいな来さん……………79 ミッキーマウス マーチ……………80 ふりかえりのページ リコーダーの演奏例……………82 いろいろな音のひびき、練習、記号 ほか……………84 音楽「君が代」……………86
--	---	--	--

3年 p.6・7



題材のねらいに沿って
教材がバランスよく
配置されているため、
さまざまな学習を通して
楽しみながら音楽の力を
身に付けることができます。

7 いろいろな音のひびきに 親しもう

トランペットふきの休日……………52	
【楽器ずかん】	
トランペットのなかまを知ろう……………54	
よろこびの歌……………54	
パフ……………56	
クロック ミュージック……………58	

← 題材

← 教材群

● 学びがつながる題材構成

例えば、3年生「7. いろいろな音のひびきに親しもう」では、「音色」を中心にしながら、各教材の特徴に合わせて、他の音楽を形づくっている要素と関連させて学習を展開します。

☑ 3年生 p.52～59「7. いろいろな音のひびきに親しもう」



鑑賞

金管楽器の音色に注目して聴く

聴くねらいを分かりやすく示しています。

鑑賞の学習をサポートするための参考曲を、新たに加えました。



器楽 (歌唱)

重なり合う音の響きに注目して合奏する

合奏を通して、重なり合う音の響きを感じ取る活動を充実させ、次の学習につなげます。



音楽 づくり

これまでの学習を生かして音楽をつくる

音色や重なり合う音の響きに注目して音楽をつくる教材「クロック ミュージック」を新たに加えました。



4年生「7. いろいろな音のひびきを楽しもう」の学習へ

改訂の3つのポイント

POINT

3

楽しさを大切に学び

～ワクワクするような紙面の工夫によって、子どもたちの心を育てます

子どもたちが音楽をする喜びや楽しさを感じ取ることができるように、さまざまなデザインの工夫をしています。

教科書に登場するキャラクター

学習内容に応じてキャラクターが表情やしぐさを変えたり、活動している様子を表したりしています。



げんき



ひな



つばさ



まなぶ



ムーブ

(ナビゲーター)

キャラクターイラスト：
あらゐけいいち



けんじ



なの



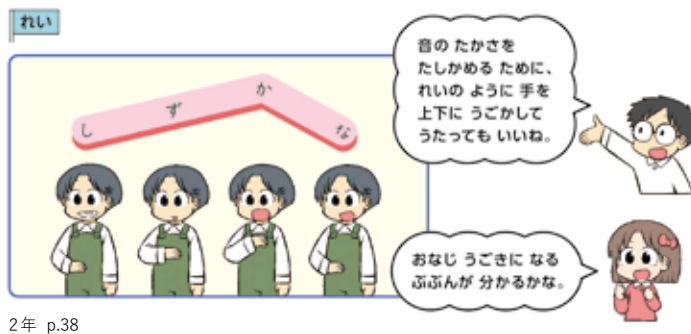
さら



子どもたちの興味・関心を
引き出すように工夫しています。



キャラクターのさまざまな表情やしぐさ、活動の様子为例



紙面上の工夫

1つの題材ごとのまとまりを分かりやすくし、各題材が目立つように、キーカラーで色分けしました。
また、学習内容を見やすくするため、白を基調とした紙面デザインにして、教科書全体の統一を図っています。

色分けのパターン(4年生)



！ 分かりやすさ・
見やすさに配慮し、
楽しさが伝わるように
工夫しています。

表紙のテーマは「音楽との出会いと探検」

表紙には、各学年で学習する内容と、
子どもたちがそれを楽しみながら協働的に学ぶ姿を描きました。

各学年の表紙とテーマ 表紙イラスト：あらみけいいち



1年 初めての音楽の時間を
楽しもう。



2年 いろいろな音や音楽を
感じて楽しもう。



3年 音楽のよさやおもしろさを
感じながら演奏しよう。



4年 デジタル端末を活用して
音楽でつながろう。



5年 目や耳で感じながら
音楽の美しさを味わおう。



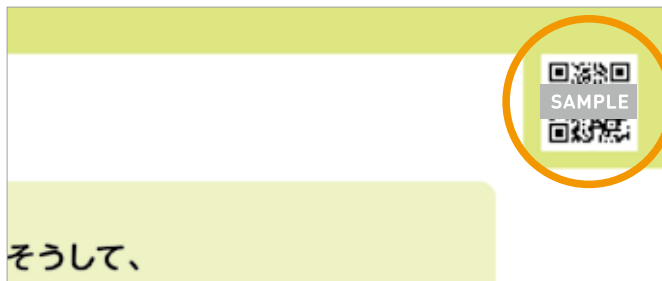
6年 これまでの音楽体験を
みんなで分かち合おう。

二次元コード

ICTを活用した学習

紙面右上の二次元コードを読み取ることで、タブレット端末で学習をサポートするコンテンツ(ムーブの部屋)にアクセスすることができます。

❗ 「個別最適な学び」をサポートします。



✓ ムーブの部屋

紙面には、🎧📺 で示されています。

※ここに掲載されているのは開発中の画面です。デザインや内容は発売に向け改良いたします。



音楽を聴くことができます

ここでは、参考となる音源を聴くことができます。授業以外の時間でも、曲の雰囲気をつかむことに役立ちます。



3年 p.10



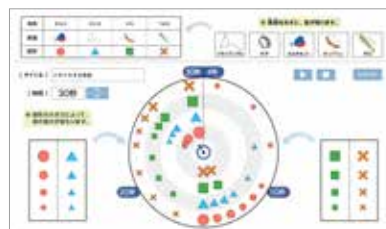
※歌唱曲は、ピアノの音で再生されます。



資料を見ることができます

ここでは、音楽づくりの教材や、楽器を紹介する動画、図形楽譜の再生などさまざまな資料を活用できます。

音楽づくりの教材



3年 p.58「クロック ミュージック」

インタラクティブなコンテンツを使用できます。

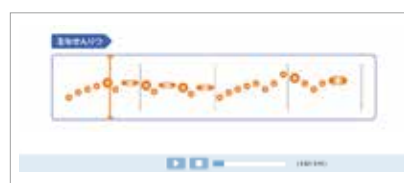
楽器について

持ち方や鳴らし方などの楽器を紹介する動画です。



1年 p.52「おとがし(トライアングル)」

鑑賞曲について



4年 p.68「山の魔王の宮殿にて」

紙面上の楽譜や図形楽譜に対応する音楽を聴くことができます。

生活や社会と音楽との関わりについて

SDGsにつながる視点

今日的な課題であるSDGs(持続可能な開発目標)について、「音楽科としてできることは何か」を踏まえ、歌唱教材の歌詞や5年口絵にSDGsにつながる視点を提示し、子どもたちの考えるきっかけとなるようにしました。

地球に関わる
内容につながる

かえ
あなたに生まれてあなたに還る
美しい約束を守りたい(歌詞より抜粋)

本田美奈子さんの散文
「地球へ」から
メッセージを受け取った、
半崎美子さんによる
書き下ろし



半崎美子さん

5年 p.70・71の歌唱教材「地球へ」には、
「地球に守られて私たちの命がある」という
メッセージが込められています。

誰もが音楽を
楽しめるように

5年口絵の内容は、SDGsの中
の目標につながります。

客席からは見ることが
できない内容を収録した
映像の音楽祭

分身ロボットを通じて
音楽を鑑賞

分身ロボットがつなぐ社会

音楽の
いろいろな楽しみ方

指一本で弾くことができる
特別なピアノを開発

5年 p.2・3

生活や社会と音楽との関わり

音楽に関わる
権利を理解する

作品を尊重することの大切さ
を考えるきっかけとなるように、
著作権についてのコラムを設け
ました。

前の学習でつくった
「ボイスアンサンブル」を
手掛かりに考えます。

6年 p.24・25



教科書の全体像を捉えるうえで要となる「題材構成」について座談会を行い、3人の先生方にお話ししていただきました。

なぜ「題材構成」を用いて教科書がつくられているのか、あらためてそのよさや大切さに気づき、より深く理解するために、さまざまな視点から「題材構成」をひもといていきます。



A 先生
小学校主任教諭

C 先生
小学校教諭

B 先生
元大学准教授

音楽に関する汎用的な力を育てる題材構成

A: (教育芸術社の)教科書がどのような構成になっているのか、その大きな特徴である「題材」について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

B: 「1曲ずつ指導する」という考え方とは別の「学習指導の内容を構成するまとまり＝主題」を指す「題材」ですね。

A: 音楽科以外の教科では「単元」という考え方があって、それぞれの学習が順序立てて進められていきますが、音楽科の学習では歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の内容がそれぞれ関連し合っていますね。

B: 歌唱の授業で、例えば「旋律」に着目した場合、次に学習する器楽や鑑賞、音楽づくりの教材ではどのように「旋律」が関わっているかという視点でも学習できるので、1つの知識を得たことにより、他にも応用できる汎用的な力を身に付けることができます。このような主題による題材構成は、音楽科の学習にとって非常に重要だと思います。

C: 「1曲ずつ指導する」と聞くと、私は新任の頃にひたすら教材、教材、教材と1曲ずつ教えていたことを思い出します。でもそれは、栄養の偏りに配慮せず、子ども



「子どもたちに何を身に付けてほしいか」と考えると、音楽に関する汎用的な力を育てることで学習効果につながって、題材構成を指導に生かす意義がみえてくると思います。

が好きな献立を毎日考えるような感じがして、「教材を教える」のに行き詰まることも多く、「よく分からないけれど何か足りない」という空虚感をいつも抱えていました。そこから抜け出せたのは、題材構成というものもしっかり捉え直したことが大きいです。いろいろな学習内容が関連し合って、充実した学びが生まれるのだと実感しました。

教材単位ではなく 題材全体の中で評価を考える

A: 題材構成の例として、4年生の教科書に「旋律の重なりを感じ取ろう」があります。このテーマをもとに歌唱、鑑賞、器楽、さらにまた歌唱の順で教材が配置されています。さまざまな学習活動を通して、「旋律」や「音の重なり」について学び、学んだことを生かしていけるような構成になっている。この題材の最後の教材「もみじ」では、子どもたちが主体的、対話的に学習を進める活動例が示されていますね。

B: さまざまな学習内容が関連し合っているのは、評価にとっても利点がありますね。1つの教材で全てを評価するのではなく、この教材では「知識」、他の教材では「技能」といったように、何が身に付いたかという評価を題材全体の中で考えることができる。

C: そうですね。例えば、歌うことが得意な子どもを歌唱の「技能」だけで評価しないということですね。

A: そうすると、教科書の目次を見て「1つの題材の中にある全ての教材を教えなくてはいけない」と思われている先生がいらっしゃるかもしれません。

B: 1つの題材の中から幾つか教材を選択することがあってもいいと思います。中学年は確かに学ぶことが多くあって、内容は厚くなっていますが、いちばん伸びる時期だからだと思います。このようなことから、題材全体の中で評価を考えていくことの大切さが分かるのではないのでしょうか。

A: そうですね。

C: まさに「題材構成」の強みですね。

B: 逆に、低学年では、教材が多く掲載されているのに「時間が余ってしまう」という話も聞いたことがあります。

C: 低学年では、教材といっても18秒ぐらいで終わってしまうものもあり、これを45分学習するのも……といった難しさは確かにあると思います。だからこそ「題材構成」だと学習の幅を広げることができて、いいですね。

B: それに低学年では、1つの教材を使ってリズム遊びや旋律遊びなどのいろいろな音楽活動を行えるので、もっと浸透していくといいと思っています。

教材どうしを関連させながら、 学びのつながりや積み重ねが得られる題材構成

C: 一方、「音楽づくり」を単体の教材と捉える傾向がみられるのではないのでしょうか。また、まとめの段階になると上手に演奏しようとして、音楽づくりなのにまるで器楽の授業のようだと感じることもあります。

A: でも、「音楽づくり」は題材とのつながりがいちばんあると思います。例えば、6年生の教科書にある「いろいろな和音の響きを感じ取ろう」の中にある「和音の音で旋律づくり」を学習する場合、3・4年の「旋律の特徴を感じ取ろう」での学習が生かされるし、5年の「音階の音で旋律づくり」や和音を扱う学習経験もあります。さらに、この学習は中学校の旋律の創作にもつながっていくので、学びのつながりや積み重ねができる題材構成は重要だと思います。

B: 学年を超えて「学びがつながっていく」という題材と題材との関連も重要ですね。これまでの学年で何を学ん

だのかを分かっているのはとても大事なことで、し、前の学年のことを振り返るのが難しければ、教科書の中の「おもしろそう」や「歌声」、「ふり返りのページ」といった特集的な扱いを意識して活用するのも効果があると思います。

C: 私は低学年を教えています。題材を意識した授業をするようになってから、子どもたちが学習した言葉をきちんと使っていると感じます。2年生だと「フレーズ」など、音楽の内容を理解したうえでイメージを膨らませて発言しており、こうした学習は学年が上がるにつれとても生きてくると思います。さらに言うと、これまで学習した内容が次につながる題材構成は、さまざまな子どもたちがいる中で授業に必要不可欠だなと感じます。

B: そうですね。例えば、歌うことに苦手意識をもっている子どもでも、歌唱の学習で気付いたことを次の得意な器楽の学習に生かすことができるし、鑑賞や音楽づくりの学習から身に付けた内容を通して、これまで苦手だと思っていたことに興味・関心をもつ可能性もあります。子どもの個性を尊重した個別最適な学びのあり方も大事ですね。

まとめ～座談会を振り返って

A: 今回のお話で、「題材構成」のよさは、学びの関連性、学びの積み重ね、学びのつながりを高めていく効果にあるとあらためて感じました。

B: 「つながり」は系統性ともいえますよね。教科書は6年間のつながりで構成されていて、題材は学年を重ねるごとに、それまでの学習をもとにして総合的な題材になるようにつくられています。

C: 時には教師の想像を超えて、これまでの学習を生かした内容の発言を子どもたちから聞けるのは、題材構成を用いているからこそといえます。習得したことを関連付けて活用する姿から子どもたちの成長がみえてくるのも、題材構成のよさだと思いました。



各題材の中で歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞のそれぞれが関連し合っていることを意識すると、評価を重点化することができますよね。

そうなんです。記録に残そうとすると負担ですが、ある教材の鑑賞では「知識」を、同じ題材の他の教材では「思考力、判断力、表現力等」や「技能」を見取るといった評価の重み付けができるのではないかと思います。

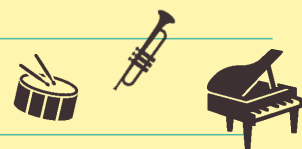


イラストレーション：ソリマチアキラ

音楽診断

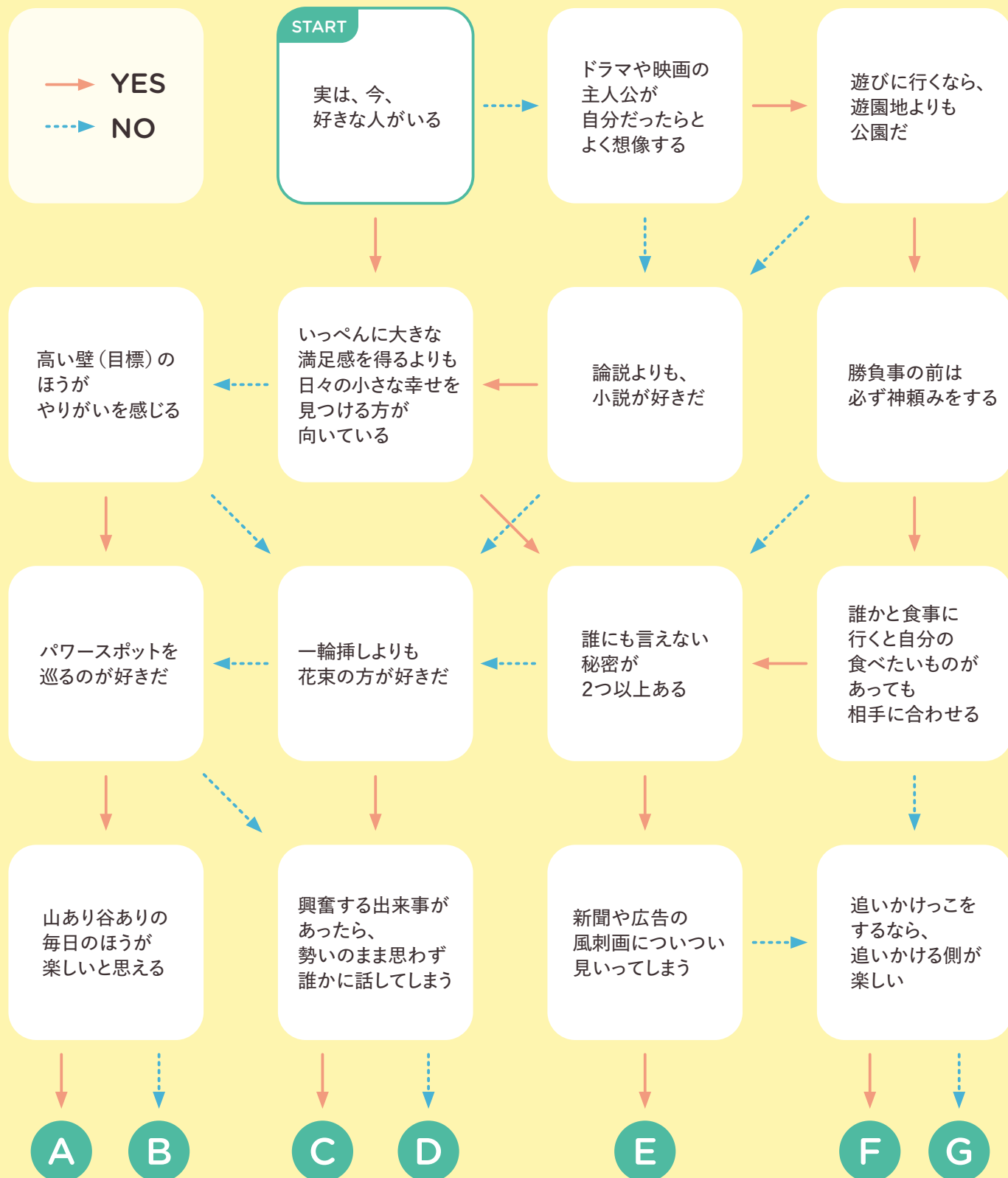
Kyogei Presents

第17回 リート編



『ヴァン』オリジナルでお届けする音楽診断企画の第17弾のテーマはリート(ドイツ語の芸術的歌曲)です。7曲の中から、あなたにおすすめの作品をご紹介します。

監修・解説 = 山田治生 Text = Haruo Yamada



リート (ドイツ語の芸術的歌曲) について

「リート」とは、ドイツ語で「歌」を意味する。つまり、ドイツ語の歌詞をもった歌曲のこと。元々もっと広い意味をもっていたが、ドイツリートと呼ぶことで、独唱のためのドイツ語歌曲に限定された。ほとんどの場合、ピアノの伴奏が付く。もちろんメロディーだけでも十分に楽しむことができるが、ドイツリートは詩からインスピレーションを受けているものが多く、まず、詩の世界を知ることが鑑賞への近道といえるだろう。

あなたにおすすめの作品

A 寂しくも美しい情景に引き込まれる ブラームス『五月の夜』(作曲:1866年) 作詞:ヘルティ

ブラームスは、オペラを残すことはなかったが、歌曲には名作が多い。『五月の夜』は1868年に出版された「4つの歌」の第2曲にあたる。ヘルティの詩による。月が輝き、ナイチンゲール(夜鳴き鶯)がさえずる5月の夜、離れてしまった愛する人のことを思い、孤独感ばかりが募る。ブラームスらしい暗い情熱を聴くことができる。



B 遠い「君」への思いを色彩豊かに描く リヒャルト・シュトラウス『万霊節』(作曲:1885年) 作詞:ギルム

リヒャルト・シュトラウスは、『英雄の生涯』などの壮麗な交響詩や『ばらの騎士』などのオペラの作曲家として知られているが、美しい歌曲も数多く残している。『万霊節』とは、キリスト教(カトリック)で今は亡き信者の霊をまつる日。亡くなった恋人への呼び掛けが描かれている。愛する人への思いが表れた旋律が感動的である。



C 妻への愛を詰め込み捧げた シューマン『献呈』(作曲:1840年) 作詞:リュッケルト

シューマンの『献呈』は彼の歌曲集「ミルテの花」の第1曲にあたる。1840年、クララと結婚したシューマンは、この歌曲集を彼女に捧げた。文字通り、花嫁に献呈された歌である。君こそわが心、君こそわが世界、といった内容が歌われる。詩はリュッケルトによる。リストによるピアノ独奏版もあり、それもしばしば演奏されている。



D 優しく清らかな歌詞とメロディーが沁みる ベートーヴェン『君を愛す(優しき愛)』(作曲:1795年) 作詞:ヘロゼー

ベートーヴェンは、さまざまなジャンルの作品を残したが、歌曲はそれほど多くない。ベートーヴェンの関心は、メロディーよりも、主題の展開や構成にあった。『君を愛す』は、彼の初期の作品。生まれ故郷のボンからウィーンに出てきてまもない1795年頃に書かれた。ヘロゼーの詩による。恋人への愛がシンプルに歌い上げられる。



E すみれの切ない恋心を描いた名作 モーツァルト『すみれ』(作曲:1785年) 作詞:ゲーテ

モーツァルトが歌曲にゲーテの詩を使った唯一の作品。ひっそりと咲いているすみれは、あの少女に摘んでもらえたらどんなに幸せだろうと思う。しかし、少女はすみれに気づかず、踏みつけてしまう。それでもすみれは彼女に踏まれて死ぬことに幸せを感じるのであった。短い歌曲だが、愛らしいメロディーに哀愁が含まれ、ドラマがある。



F 歌曲王の初期傑作 シューベルト『野ばら』(作曲:1815年) 作詞:ゲーテ

シューベルトは、天性のメロディー・メイカーであり、31年の短い人生に600曲ほどの歌曲を残していて、しばしば「歌曲王」と呼ばれる。『野ばら』のメロディーもどこかで聴いたことがあるはず。ゲーテの詩による。子どもが野に咲くばらを見つけ、子どもがそのばらを折ってしまうが、その色や香りやとげの痛さはずっと子どもの心に残るだろう。



G 作曲家が自身の誕生日に残した名曲 ヴォルフ『祈り』(作曲:1888年) 作詞:メーリケ

ヴォルフは、300曲あまりの歌曲を残し、19世紀末最大のリート作曲家といわれている。彼の作品は、2つのオペラと若干の管弦楽曲、室内楽曲、合唱曲以外は、すべて歌曲である。精神を患い、42歳の若さで亡くなった。『祈り』は「メーリケ詩集」の第28番にあたる。神への祈りと慎ましやかな喜びや悲しみへの思いがゆったりと歌われる。



山田治生(音楽評論家)

1964年、京都市生まれ。1987年、慶應義塾大学経済学部卒業。著書に『トスカニーニ〜大指揮者の生涯とその時代』、小澤征爾の評伝である『音楽の旅人 ある日本人指揮者の軌跡』、『いまどきのクラシック音楽の 楽しみ方』(以上、アルファベータ)、編著書に『戦後のオペラ』(新国立劇場運営財団情報センター)、訳書に『レナード・バーンスタイン ザ・ラスト・ロング・インタビュー』(アルファベータ)などがある。



研究大会

10 月

October

26 日(木)・27 日(金)

令和5年度 全日本音楽教育研究会全国大会
(小・中学校部会大会・高等学校部会大会)
富山大会

第18回東海北陸小中学校音楽教育研究大会
富山大会

富山市芸術文化ホール(オーバード・ホール) 他

〈大会主題〉

つなぐ 深める ひびき合う ～豊かな音楽の学び～

[問い合わせ]

富山市立光陽小学校 教頭 土井和哉

〒939-8211 富山市二口町1-4-1

TEL 076-425-2277/FAX 076-425-1700

doi-kazuya@toyama-city.ed.jp

11 月

November

10 日(金)

第65回北海道音楽教育研究大会 函館・道南大会
第49回道南音楽教育研究大会

函館市民会館 他

〈全道共通主題〉

音楽のよさを分かち合い 確かな力を育む音楽教育

〈函館大会主題(仮)〉

音楽でつながり ひろがる 心と学び
～なるほど それもいいね!～

[問い合わせ]

第65回北海道音楽教育研究大会函館大会準備委員会事務局

函館市立千代田小学校 教諭 立野恭子

〒040-0015 函館市梁川町23-4

TEL 0138-52-2518/FAX 0138-52-2517

tateno@hakodate-hkd.ed.jp

10 日(金)

第65回近畿音楽教育研究大会 大阪大会
第66回小学校 第64回中学校
大阪府音楽研究大会南河内大会

ザ・シンフォニーホール 他

〈大会主題〉

心が動く 音楽の力 未来を拓く 音楽の学び

16 日(木)

第71回東北音楽教育研究大会 秋田大会
第59回秋田県音楽教育研究大会 中央地区大会

あきた芸術劇場ミルハス 他

〈大会主題〉

ひびきあう よろこび
～共に学び、音楽のよさを実感できる授業づくり～

[問い合わせ]

第71回東北音楽教育研究大会秋田大会実行委員会事務局

秋田市立四ツ小屋小学校 校長 石井麻貴

〒010-1417 秋田県秋田市四ツ小屋字街道東256-1

TEL 018-839-2050/FAX 018-839-2964

ishii-maki@edu.city.akita.akita.jp



教育芸術社ホームページでは、
この他の研究大会やイベントなどの
情報も掲載しています。

https://www.kyogei.co.jp/data_room/event/

— 新作合唱曲による公開講座 —

Spring Seminar

2024

コンクール自由曲向けの新曲発表会「スプリングセミナー2024」を開催いたします。

同声・女声・混声の作品を作曲者、司会者、合唱団と学びます。最新情報は弊社ウェブサイト等でご確認ください。

●日 程：2024年3月下旬

●司 会：藤原規生

●お問い合わせ：

株式会社教育芸術社

スプリングセミナー実行委員会

TEL 03-3957-1168

FAX 03-3957-1740

<https://www.kyogei.co.jp/spring-seminar/>

17日(金)

第65回関東甲信越音楽教育研究会 長野大会
第72回長野県音楽教育研究大会

ホクト文化ホール(長野県県民文化会館) 他

〈大会主題〉

発見！音楽のオモシロさ！

～音楽科における個別最適な学びと協働的な学びを通して～

※大会案内は随時こちらでご確認いただけます。

<http://www.nagano-ongaku.sakura.ne.jp>

(長野県音楽教育学会 公式HP)

[問い合わせ]

長野市立若槻小学校 長谷部直子

〒381-0084 長野市大字若槻東条810

TEL 026-295-6969 / FAX 026-295-6948

naoko-hasebe-01@nagano-ngn.ed.jp

17日(金)

第54回中国・四国音楽教育研究大会 愛媛大会

松山市民会館大ホール 他

〈大会主題〉

伝え合おう 響き合おう 未来へつながる わたしの音楽

[問い合わせ]

中四国音研 愛媛大会事務局

松山市立三津浜小学校 教頭 和田和美

〒791-8051 松山市梅田町2-42

TEL 089-951-0804 / FAX 089-951-4969

onken54ehime@gmail.com

21日(火)・22日(水)

第64回九州音楽教育研究大会 鹿児島大会
第61回鹿児島県音楽教育研究大会

宝山ホール(鹿児島県文化センター) 他

〈大会主題〉

あそぶ たのしむ ひらく そして生きる

[問い合わせ]

実行委員会 事務局

さつま町立宮之城中学校 教諭 宮永智洋

〒895-1803 薩摩郡さつま町宮之城屋地391

TEL 0996-53-0855 / FAX 0996-53-0856

mtmajormvtpjjhs@yahoo.co.jp



最新情報は弊社ウェブサイトで
随時公開いたします。

<https://www.kyogei.co.jp/spring-seminar/>



最新情報は、スプリングセミナーの
Facebookでも発信いたします。

<https://fb.me/kgsspringseminar/>

内容は予告なしに変更になる場合がございます。



編集後記

草花が少しずつ芽生え、心地よい風の吹く季節となりました。新年度の季節は、大人になった今も背筋が伸びる感覚を覚えます。

今号の巻頭インタビューでは、さまざまなメディアでも活躍の教育社会学者・内田良先生に、これからの学校現場の課題となる「部活動の地域移行」について伺いました。内田先生は部活動が負担になってしまっている先生方、双方のお立場を大切にしながら、具体的な提案をお話くださいました。

本誌は特集に関連して、教育芸術社の教科書と同じ種類の紙で製作しました。ぜひ手触りや質感、色などをお確かめください。

お忙しい中、取材や執筆、編集にご協力を賜りました全ての方に、心より厚く御礼申し上げます。今後ともご支援くださいますよう、お願い申し上げます。

表紙・巻頭イラストレーション
たかなかな

写真提供
藤原道山

イラストレーション
KAnaMi
ソリマチアキラ

表紙デザイン・本文組版
STORK

音楽教育 ヴァン 

発行者 株式会社 教育芸術社
(代表者 市川かおり)
〒171-0051 東京都豊島区長崎1-12-14
TEL. 03-3957-1175(代)
FAX. 03-3957-1174
https://www.kyogei.co.jp/
JASRAC 出 2301879-301
©2023 by KYOGEI Music Publishers. ©23
本書を無断で複製・複製することは著作権法で禁じられております。

*ヴァンは“vent”はフランス語で「風」。
新しい音楽教育の地平を切り開いていく
願いを込めています。



Recommend

小学校 学校行事・授業のための新教材集 地球へ

- ふだんの授業から音楽会まで様々なシーンで使える曲を精選しました。
- 収録曲：ほしぞら／Paradise Has No Border／他(全12曲)
- 定価880円(本体800円+税10%)／B5判／48ページ ●ISBN978-4-87788-976-0
- 準拠CD(別売り)
- 価格1,980円(本体1,800円+税10%)／1枚 ●GES-15943



小学校 学校行事・授業のための新教材集 ハッピーソング

- 斉唱3曲、二部合唱7曲、器楽合奏3曲の全13曲を収録。授業や音楽会に最適な小学校向けの新しい教材集、待望のシリーズ第3弾!
- 収録曲：ハッピーソング／ペガサス／他(全13曲)
- 定価880円(本体800円+税10%)／B5判／56ページ ●ISBN978-4-87788-979-1
- 準拠CD(別売り)
- 曲集に準拠した全13曲の範唱・範奏音源の他に、器楽合奏3曲のカラピアノ音源が収録されています。
- 価格1,980円(本体1,800円+税10%)／1枚 ●GES-15977
- 歌唱曲のカラピアノ音源は、音源配信サイトからのダウンロードによりご購入いただけます。



中学生のための新しい教材集 天球図

- 新作のアカベラ、混声二部、三部の合唱曲や、手拍子が主役の作品、ボディーパーカッション、机を楽器に見立てたりズム アンサンブル、小編成の合奏曲など、さまざまな演奏形態の作品を掲載しています。
- 収録曲：前に／瞳をとじて見えるもの／天球図／14 -fourteen-／懐かしい未来／Bodipa Beats Z／Desk Drumming -part 1-／Desk Drumming -part 2-／クラッピング ラブソディ第4番／Brave Departure／We Are Confidence Man
- 定価880円(本体800円+税10%)／B5判／56ページ ●ISBN978-4-87788-990-6
- 準拠CD(別売り)
- 1枚 価格1,980円(本体1,800円+税10%)／1枚 ●GES-15978



保育者を目指すあなたへ 動画で楽々マスター! コードで弾けるピアノ伴奏法 峯 晋 藤井菜摘 著

- ピアノを弾いたことのない方でも、すぐに子どもの歌の伴奏ができる「魔法ブック」です。手の位置を示す鍵盤図を見ながら簡単に弾くことができ、二次元コードからは全ての曲のデモ演奏の動画を視聴することができます。全ページオールカラーです。
- 定価1,100円(本体1,000円+税10%)／A4判／32ページ ●ISBN978-4-86779-000-7



学習者用デジタルコンテンツ 小学生の音楽1〜6

- GIGAスクールに対応! Chromebook、iPad、Windowsで使える! 音楽でICTの活用ができる、教科書に対応したデジタルコンテンツ集!
- 提供方法：クラウド配信
- 「学習者用デジタル教科書」+「学習者用デジタルコンテンツ」セット 1ライセンス 各学年価格1,540円(本体1,400円+税10%)
- 学習者用デジタルコンテンツ [スクールパック 1年間版] 各学年価格11,000円(本体10,000円+税10%)



学習者用デジタルコンテンツ 中学生の音楽1／2・3上／2・3下 学習者用デジタルコンテンツ・映像資料 中学生の器楽

- 「創作」の教材を中心に生徒一人一台のタブレット端末で利用できます。
- 提供方法：クラウド配信
- 「学習者用デジタル教科書」+「学習者用デジタルコンテンツ」セット 1ライセンス 各巻価格1,540円(本体1,400円+税10%)
- 学習者用デジタルコンテンツ [スクールパック 1年間版] 各巻価格11,000円(本体10,000円+税10%)
- 学習者用デジタルコンテンツ [スクールパック 教科書使用期間版] 各巻価格20,900円(本体19,000円+税10%)

